

活動報告

◆ 診療部

副院長 兼 診療部長 庄野弘幸

今年度は、外科に大島医師が就任し、泌尿器科に白井医師が常勤することになった。また、消化器科に渡辺医師を迎えることができた。

手術件数も順調に伸びていたが、下園医師、多々良医師、益山医師と年度途中で3名医師の退職がつづき、入院患者や救急患者の診療に無理が生じるようになった。幸い、済生会熊本病院からの当直応援などで、何とか救急診療を続けることができた。

今年度の最大の課題は「病院機能評価受審」であった。新たに加わった先生方にもかなり無理をしていただいて、何とかこれをクリアすることができた。

それに伴い、術前術後の検討会が軌道にのって、医師・看護師・コメディカル合同のカンファレンスができるようになったことも大きな成果であった。

手術件数も270件と昨年に比べて大きく増加した。

新入院患者数は1,710名、平均年齢は73歳（中央値76歳）であった。平均年齢は昨年より2歳、中央値は1歳高くなった。65歳以上の高齢者が78%とこれも昨年より2%増加した。内90歳以上も145名8.5%と昨年より20名以上の増加であった。高齢化がさらに進んでいる印象であった。

入院での死亡は101名で、そのうち悪性疾患が42名、肺炎28名、脳神経疾患12名、循環器疾患11名、消化器疾患5名などであった。

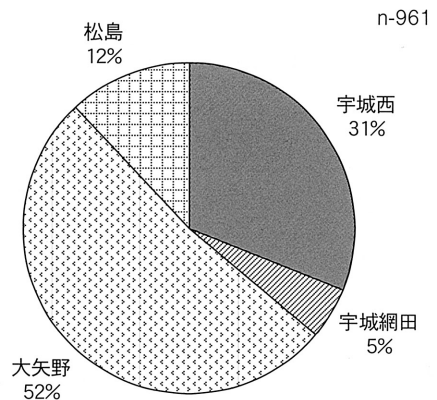
1日平均外来患者数は122名であった。

救急外来では、年間で6,238名診察し、うち救急車の受け入れが961名であった。

心肺停止状態で搬送された患者が22例であった。

救急からの入院が全入院患者の55%を占めていた。

救急車搬送内訳



救急外来 n=6,238

救急車来院	961
帰宅	33%
入院	49%
転送	15%
救外からの入院	1,002

<入院患者疾患別内訳>

脳神経	251
消化器	272
泌尿器	187
循環器	163
外科	257
内科	100
呼吸器	235
整形外科	204
精神	34
その他	7
合計	1,710

入院患者疾患分類

